

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2020年8月)

勉学

前期の授業は8月7日に終了しました。また、レポートを2つ書きました。一つ目は、日本文学の授業のレポートとして江戸時代の「百千鳥狂歌合」という絵本に登場した鳥たちと狂歌の関連性と解釈についての検討結果をまとめました。二つ目は、ドイツの近代美術と日本の授業のレポートとしてMUJI(無印良品ブランド)とThe Bauhaus(ドイツの美術学校)のデザインの共通点について検討結果をまとめました。

研究進捗

これまでの調査した結果から論文に書くべき内容を整理し、必要な出典やデータベース等を確認しました。また、論文の構成と各章の内容を検討し、下記のように決定しました。

テーマ	文化的な標識としてのマンホール蓋のデザイン：日本を理解するための入口
内容	序論：マンホール蓋の紹介 (a) マンホール蓋と美術の世界（アーバンアートとしてのマンホール蓋、日本のマンホール蓋と他の国） (b) マンホール蓋のデザインモチーフ（様々なモチーフの紹介、マンホールカード、研究するモチーフの決定【雉・翡翠・目白】） 第1章：文学的な出典に基づく意味合いの調査 (1.1) 雉、『古事記』『万葉集』『発心集』『むかしむかしの桃太郎』『故事俗信ことわざ大辞典』 (1.2) 翡翠、『日本書紀』『空華集』『俳諧・本朝文選』『子規全集第一巻』 (1.3) 目白、『俳諧・犬子集』『百千鳥狂歌合』『父の婚礼』『角川俳句集』 第2章：美術的な出典に基づく意味合いの調査 (2.1) 雉、『四季花鳥図屏風』伝雪舟、『雉と蛇』葛飾北斎 (2.2) 翡翠、『柳に翡翠図』渡辺玄対、『菖蒲に翡翠』歌川広重 (2.3) 目白、『百千鳥狂歌合(えなが・めじろ)』喜多川歌麿、『柿に目白』小原古邨 第3章：教材としてモチーフを使用する可能性の検討 「マンホール蓋に鳥たち」絵本の作成 結論：結果分析と結論づけ ※上記は、今後変更することがあります。

生活状況

コロナの状況はまだ安心できないため、主に自宅で過ごしていたところ、以外に新しい趣味ができました。それは、室内に置いてある小植物の写真を撮ることです。また、8月31日に体を動かし気分転換をするために、近所にある「千貫樋水郷公園」を散歩に行ったところ、公園の小川でカワセミを初めて見ました。ずっと見たかった鳥なので、非常に嬉しかったです。近づいて行ったら(6-8mの離れた場所)、頭と背中光っている青色の羽毛が見られて本当に美しい鳥だと思いました。普段中々出会えない鳥に遭遇したのはとてもラッキーでした。サプライズな一日となりました。



以上